

日交研シリーズ A-769

平成 30 年度研究プロジェクト

「これからの道路交通政策－運輸管理から考える－」

刊行：2020 年 2 月

これからの道路交通政策  
－運輸管理から考える－  
**Recommendations for Future Studies  
on the Public Transportation**

主査：高田邦道（日本大学名誉教授）  
Kunimichi Takada

要 旨

本研究は、来るべき自動運転車時代の道路交通政策を道路管理および交通管理の視点から検討したものである。自動運転車技術の開発に伴い、その実現化は運輸管理、すなわちバス運行に最も早く及ぶことは、自動運転車の実験動向から容易に推測できる。それは、公共交通のネックとなる人件費の節約が求められるからである。しかし、それには自動運転車時代に相応しい道路整備が大前提となる。しかし、バス整備が必要な小規模の、あるいは地方の自治体では、それに伴う道路整備が貧弱で、これからの道路交通政策として、当面シェア交通の公営化が現実的ではないかという仮定の下で、本報告では検討した結果を取りまとめたものである。

キーワード：自動運転車、道路管理、交通管理、幹線道路、公共交通

Keywords : driverless car, road management, traffic management, major roads,  
public transportation systems